

主な活動事例

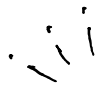
取組1 中京区の魅力再発見！「中京区街歩きすごろく」制作

取組2 「わかもののまちサミット2022 in 京都」の共催

取組3 選挙啓発アート企画、リレー講座の運営

取組4 若者の居場所づくり、質問箱の運営

取組5 京都の史跡を巡るフィールドワークの開催



取組の目標



① 次期プランに子ども・若者の声を反映

一過性ではなく、プラン策定後も、

② 継続して若者等の声を聞くしくみがある

報 告 書 共 有

（ 意見聴取の概要 ・ YCKが考える重点項目 ）

テーマ①

あなたが特に必要だと思う、
若者の居場所づくりのための
しくみや**要素**とは何ですか？

取組の趣旨



「若者の声反映プロジェクト～届け!!モヤモヤくん～」

プランに対する意見＝堅苦しくなってしまうがち



意見反映をもっと身近に感じられる
若者の日常での困り事や願い、気づきを気軽に伝えられる
自分ごととして考えられる

私たちが大切にしたこと

- ✓ 自分ごととして考えてもらう
- ✓ 対話を重ねながら意見を聴き取る
- ✓ 意見の背景や想いを大事にする

意見聴取の概要

調査対象者

青少年活動センターを利用する概ね13～30歳の若者

青少年活動センター及び京都市子ども・若者総合相談窓口の職員（ユースワーカー）

回答数

青少年活動センターの利用者（若者）／アンケート	783件
ユースワーカー（職員）／ヒアリング	計16名
ワークショップ参加者／グループディスカッション	計13名

青少年活動センターでの聞き取り



- ・意見箱（モヤモヤくんBOX）の設置
- ・YCKメンバーと若者との対話
- ・キッチンカーやカフェとのコラボ企画

etc.

公園の利用規制が厳しいし、運動できる施設が少ない

学校で問題集を配ってくれなくなり、勉強できない

普段の生活で不便さに意識が向きやすいものへの意見が多く出たが...

ユースワーカーへのインタビュー

背景

アンケートに書かれた意見の背景や理由の把握
その場限りの意見聴取では把握しづらいニーズがあること
意見表明をしない、表明するのが難しい若者の存在

- ◎ 青少年活動センター、子ども・若者総合相談窓口に来所する若者と関わりのある職員に、若者・若者支援についての聴き取りを行った



来所する若者が求めているニーズ
抱えている困難さについて
支援する中で感じる難しさ など

対話型ワークショップ

学校生活

第三の
居場所

進路
ライフデザイン

子ども・若者が
抱える困難さ

子ども・若者の声が届く仕組みって？

出会えて良かったこと
欲しかったこと

(人・モノ・場所・サポートなど)

京都市にはどんな子ども・
若者の意見を聴くしくみが
必要だと思いますか？



普段なら人に伝えないような意見や
より発展した意見を作り上げることができた

これからの
若者施策を考える



若者施策の重要な視点

- 視点1 安心して過ごせる居場所と体験・活躍機会の拡充
- 視点2 困りごとを抱える若者や自己実現に向けた支援の強化
- 視点3 若者の成長・活躍を支える担い手の確保

安心して過ごせる居場所と体験・活躍機会の拡充

居場所を創出する機会とあそび・余暇活動の確保

ヒト

相談できる相手や共通点のある仲間、ロールモデルとなる人の存在

モノ

自己表現できる資源やツール、好きなものや興味のあるもの

コト

実践的な活動の機会や他者とのかかわり

自己実現に向けて成長できる機会や魅力ある場

》》》 若者の持つ多様な力が発揮できる社会づくり

安心して過ごせる居場所と体験・活躍機会の拡充

意見表明や参画機会の拡充

自らの声に耳を傾けられ、その声をきっかけとして
社会への影響や変化が生まれる経験



安心感や充足感

自己肯定感
自己有用感

当事者意識



意見形成・意見表明のための支援が必要
声が聴かれづらい、参画しづらい当事者がいることに留意

困りごとを抱える若者や自己実現に向けた支援の強化

生育環境や背景によらず、若者一人ひとりが自分らしく
生き生きと過ごし、成長できる環境づくり

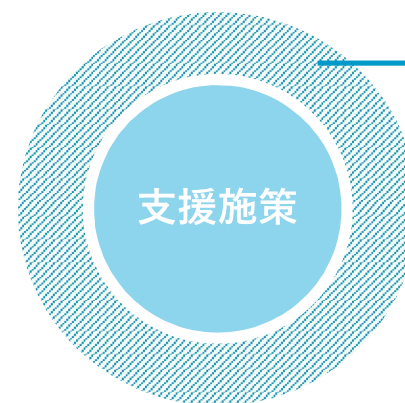
特に困難を抱える若者や家族等への支援

直面する困難な状況を「仕方ない」と諦めさせない
連携先のない若者を生み出さない
制度や仕組みを利用できない若者へのサポート

若者が日常的に相談できる環境や伴走支援

学習や進路、人間関係といった悩みや不安を抱えながらも
どこにも相談できる相手がいない若者への支援

支援の対象とならない若者の存在

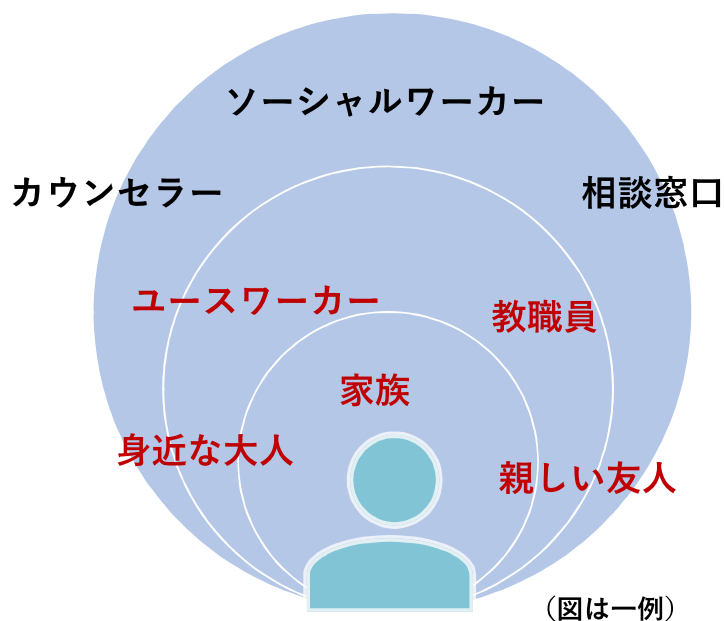


若者の成長・活躍を支える担い手の確保

支援者

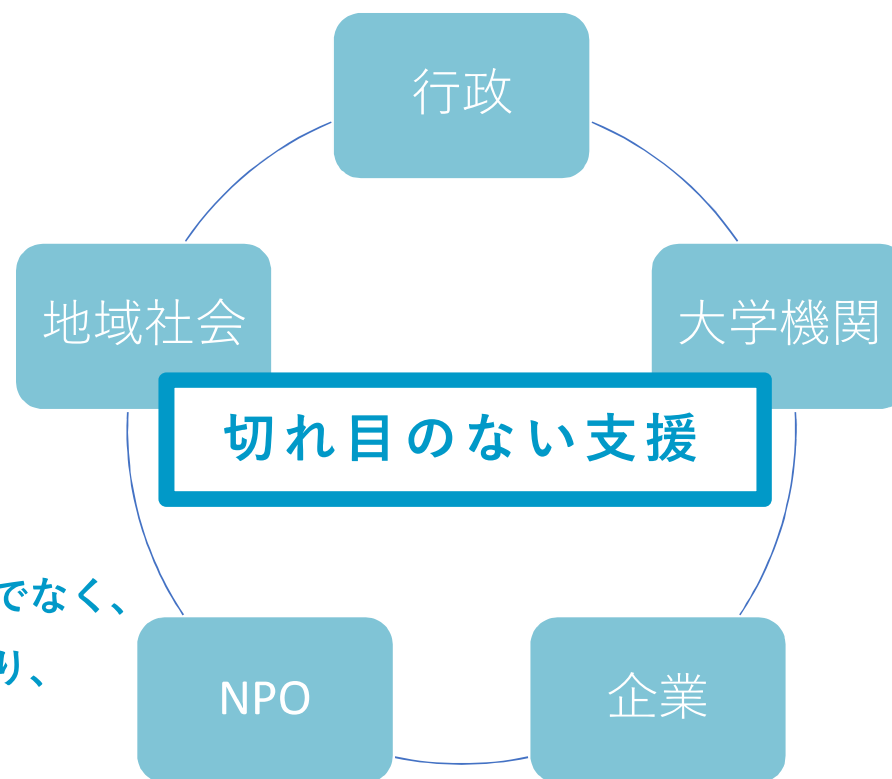
カウンセラー・ソーシャルワーカー
児童心理司・相談窓口
など**心理・福祉等の専門職**

若者にとっていきなり専門家に相談することは**難**



困難を抱えた時だけでなく、
日常的に若者と関わり、
見守り、支える

多様な担い手の存在



報 告 書 共 有

（ 子ども・若者の意見反映のしくみ ）

テーマ②

あなたが特に必要だと思う、
子ども・若者の声を聞くための
しくみや要素 とは何ですか？

前提

ポイント①



こども・若者は、こどもまんなか社会をともに作るパートナー



こども施策の基本的な方針は、こども・若者の意見を聴いて、その声をまんなかに置いて、対話しながらともに社会をつくること



国や地方自治体がこども・若者の意見を聴く取組をしていくことで、こども・若者の意見を尊重する意識が醸成され、こども・若者が関わる様々な場において、取組がすすむことが期待されます。

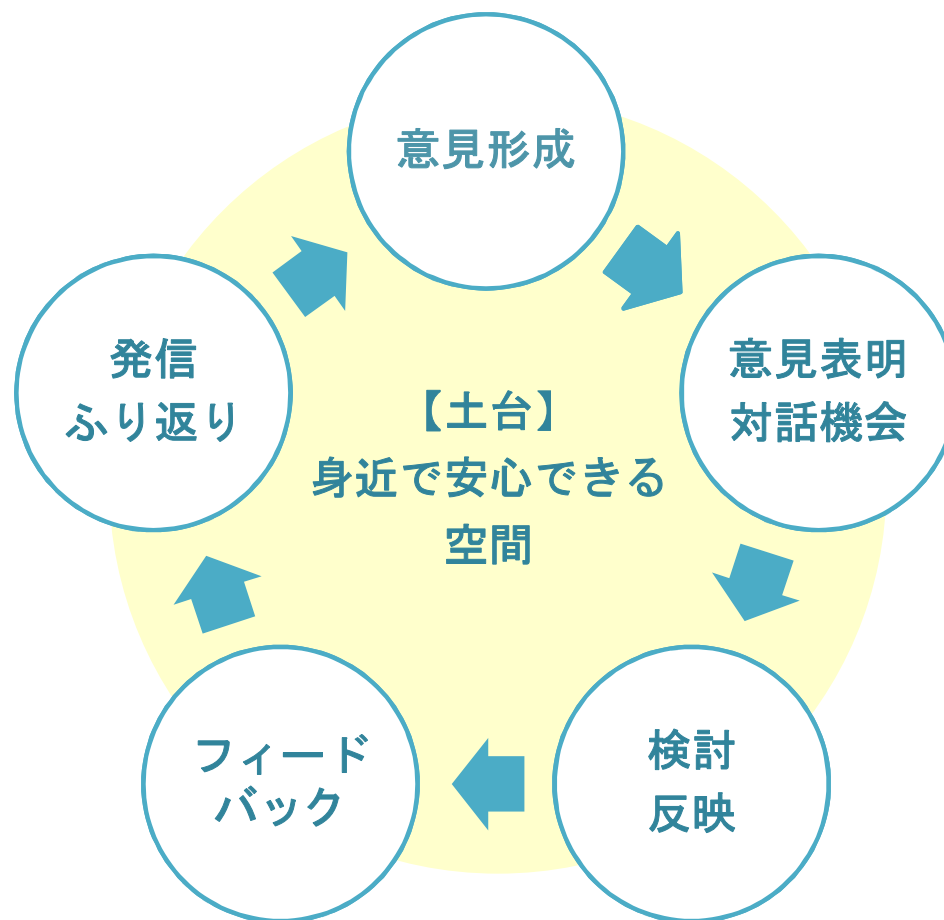
ポイント②

知っておきたい意見反映の2つの意義

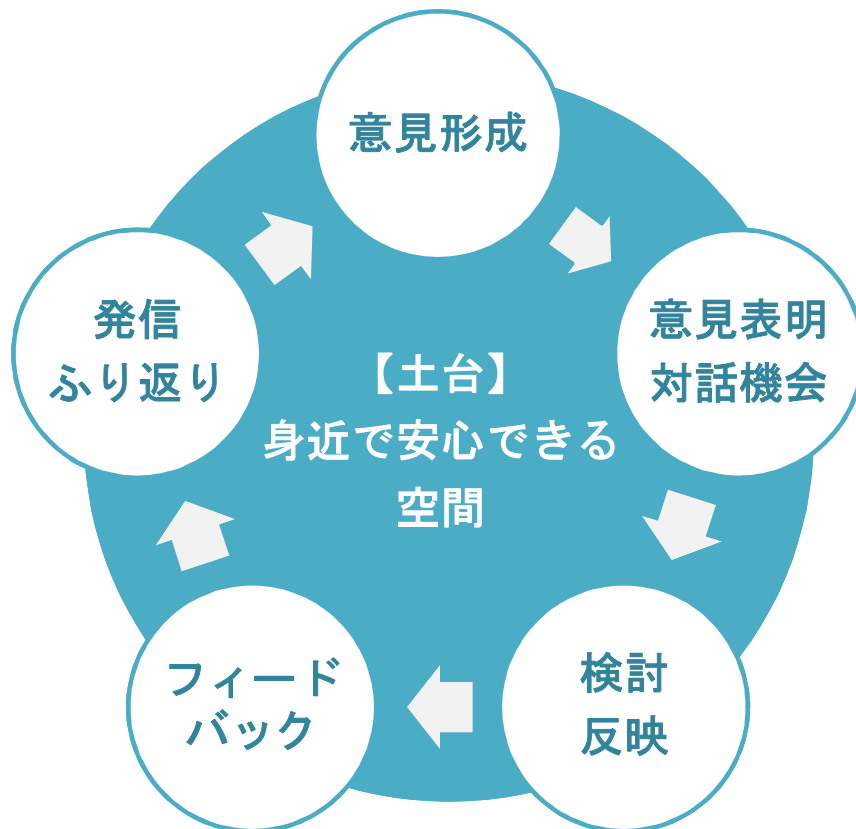
- 1 こどもや若者の状況やニーズをよりの確に踏まえることができ、施策がより実効性のあるものになる。
- 2 こどもや若者にとって、自らの意見が十分に聴かれ、自らによって社会に何らかの影響を与える、変化をもたらす経験は、自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めることにつながる。ひいては、民主主義の担い手の育成に資する。

前提

循環型子ども・若者の意見反映モデル



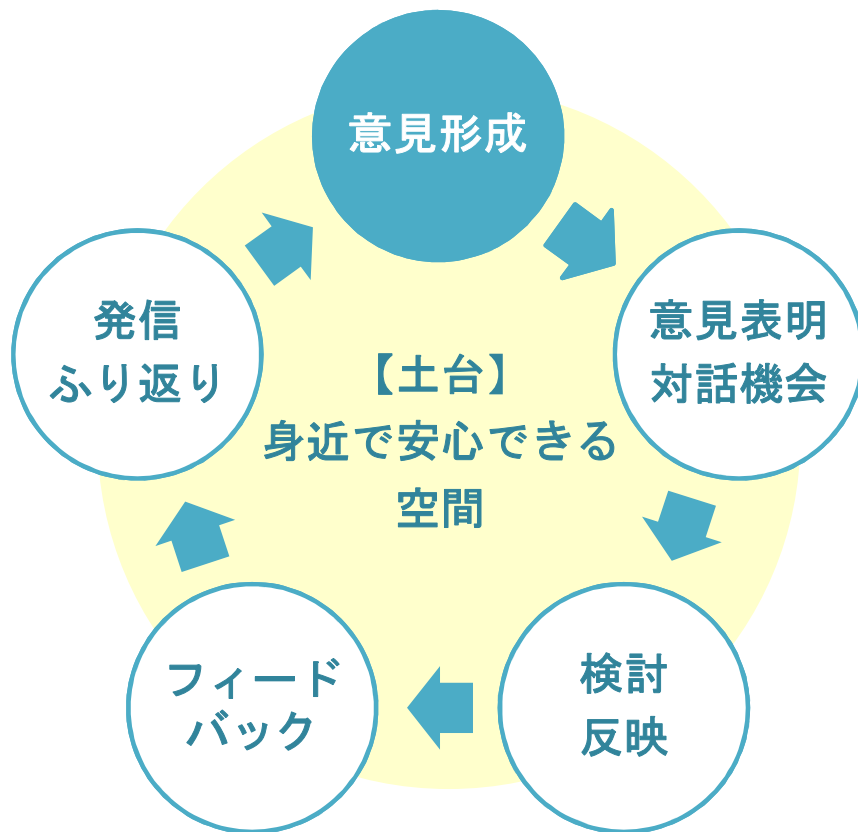
土 台



身近で安心できる空間

- ☑ 自分の存在を受けとめてくれる
- ☑ 普段から想いを伝えられる

意見形成



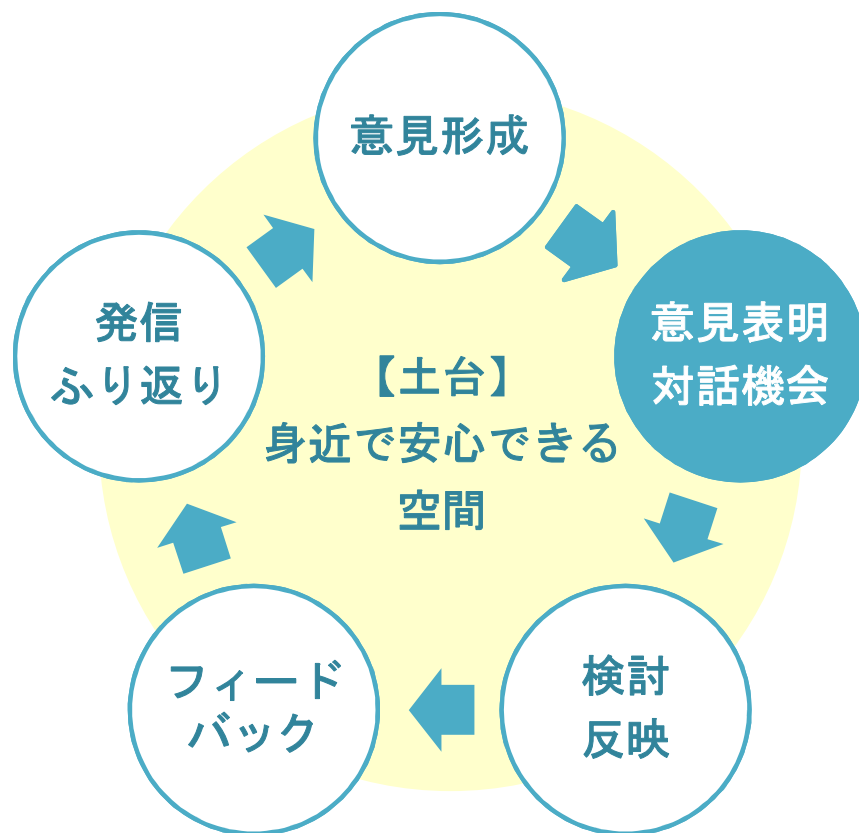
声を生み出すきっかけ

☑ まちや市政についての情報

☑ 体験機会

☑ 若者による機会の提案・運営

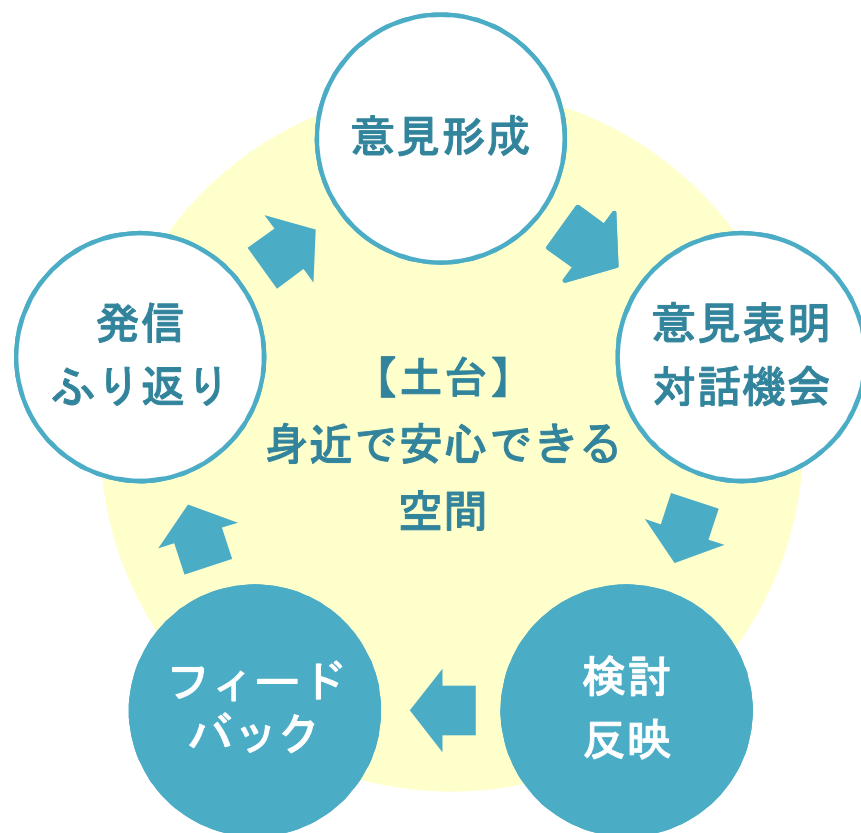
意見表明・対話機会



意見をしやすい工夫

- ☑ 複数の手段から選択できる
- ☑ 若者によるテーマ設定の機会
- ☑ 共感者や伴走者の存在
- ☑ 予算措置

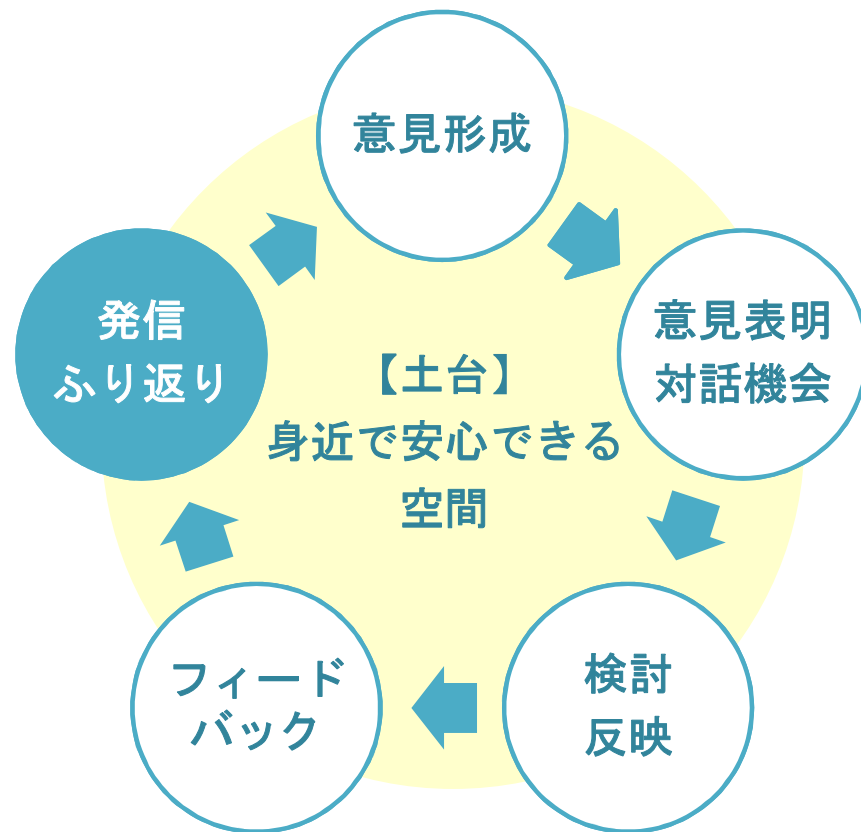
検討・反映・フィードバック



納得感

- ☑ 検討プロセスと進捗の見える化
- ☑ 対話しながら共に検討する機会
- ☑ 検討結果と理由のフィードバック

発信・ふり返し



意見反映の風土づくり

☑ 意見と検討結果の発信

☑ 定期的な実態把握と評価改善